感想文特選作品紹介

「町民読書感想文・感想画コンクール」より

「第1回川根本町町民読書感想文・感想画コンクール」特選作品を今月号と来月号の2回にわたりご紹介します。

◆ぼくもいろいろかんがえたよ

本川根小1年　服部央河（はつとおうが）

ぼくは、「どんなかんじかなあ」ってほんのだいめいが、ワクワクたのしそうで、ひょうしのにっこりわらっているおとこのこのえがきにいって、このおはなしをよんだよ。

ひろくん、ぼくもひろくんみたいに、めがみえないってどんなかんじかなあって、めをつぶってみたよ。まっくらだね。「いってえ。」あるいたら、かべにぶつかっちゃったよ。ひろくん。ほんとだ。たくさんのいろいろなおとがきこえてきたよ。

ひろくんは、めのみえないまりちゃんに、いつもきこえていないたくさんのおとがきこえるから、みえないってすごいんだねっていったけど、ぼくは、まっくらでみえていたものがみえなくて、むねがどきどきふあんになっちゃったよ。やっぱりぼくは、みえたほうがいいや。めがみえるって、すばらしいや。

ぼくも、みみがきこえないってどんなかんじかなあって、かんがえたよ。じぶんのこえも、どんなこえかわからないんだよね。だいすきなかぞくのこえも、きこえないんだ。

「こつん。」こんなおとさえもね。だから、めでじょうほうをあつめるんだね。

ぼくのむねが、なんだかずきんてした。ひろくんは、うごけないからだだったんだね。ぼくは、「あっ。」ってびっくりしたよ。

ぼくは、このほんをよんでいろいろかんがえたよ。いろいろなひとが、いきているんだね。ぼくは、なんでもできる、しあわせなからだなんだね。

どんなかんじかなあってかんがえると、ひとにやさしくなれるよ。こまっているひとがいたら、ぼくができることはたすけてあげるよ。

ぼくは、ひとのきもちがかんがえられるひとになりたいな。

◆「耳かきのすきな王さま」を読んで

中央小学校2年　薗田久実（そのだくみ）

わたしは、耳かきをしてもらうのが大すきです。でも、お母さんにつづけて耳かきをたのむと、「あんまりやると、耳にきずができるよ。」と言われる時があります。

王さまは、なぜ耳かきをするのがすきなのかな。大きな耳あかがとれると、気もちがいいからかな。王さまは、大きな耳あかがとれるとごきげんになり、「いい耳だ。」と言って、ごほうびをくれます。わたしも、耳かきをしてもらって、ごほうびにダイヤモンドをもらえたらしあわせだな。

でも、はんたいに耳あかがとれないと、王さまはきげんがわるくなって、「わるい耳だ。わるいやつ。」と、ぎゅうぎゅう耳をひっぱります。耳あかがとれるかとれないかで、王さまのその日の気ぶんがかわるのです。

家来の耳をかきすぎて、左の耳から右の耳まであながあいてしまった時は、びっくりしました。王さまが家来にめいれいをしても、すぐに声がぬけてしまうので、王さまもじぶんがたのんだことがつたわらず、こまったんじゃないかな。

王さまがけがをしてたすけをよんだ時も、耳にあながあいた家来には、やっぱり聞こえません。ひと月ベッドでねたきりになってしまった王さまは、何をかんがえていたのかな。家来の耳あかをかきすぎたことをはんせいしていたのかな。お母さんがかきすぎるときずになると言っていたいみが、わかったような気がします。

でも、やっぱり耳かきをしてもらうのは気もちがいいんだよね。王さまは、こんどは家来から耳かきをたのまれることになりました。王さま、また耳かきをすることができてよかったね。

わたしも、王さまに耳かきをおねがいする時は、かきすぎないようにしてね、とつたえたいと思います。王さまの金ぴかの耳かきでやってもらったら、さい高だろうなあ。